資料２関連

ポイント
（令和２年度農業信用保険料率算定委員会の結果）

１．趣旨

第４期中期目標において、毎年度、保険料率水準の点検を実施し、必要に応じて、保険料率の見直しを行うこと等とされており、令和２年 12 月 17 日に料率算定委員会を開催し、点検を行った。

２．点検の結果

（１）現行保険料率水準の点検

○　農業資金と生活資金をあわせた資金全体の現行保険料率（0.16%）と２年度理論値（0.15%）は近似。

○　資金によっては、保険料率の引上げや引下げの検討が必要な資金があるが、現行料率体系を概括してみると、生活資金は理論値を上回る保険料率が設定され、その差分で農業資金は理論値よりも抑えた保険料率が設定されている構造。

○　この料率体系については、<u>今中期目標期間中は手をつけないことが妥当</u>であり、<u>現行保険料率で据え置く。</u>

（２）公庫転貸資金の取扱いについて

○　公庫転貸資金は、公庫から転貸は原則廃止するとの方針が出されているが、一部の基金協会では保証引受が伸びている状況。

○　転貸資金の大宗を占めるスーパーL 資金は農業近代化資金より事故率が高く、青年等就農資金も相当事故率が高い。

当分の間は、現状どおり、農業経営改善資金の資金区分の保険料率を適用するが、スーパーL 資金と青年等就農資金は毎年度事故率等の状況を確認し、必要に応じて、独立した区分の設定も検討。